



友和

NO.590

発行日 令和 8 年 6 月 1 日

発行 社会福祉法人 友和の里

〒 738-0203

広島県廿日市市友田 218-38

TEL0829-74-2157 FAX0829-74-2154

HP : <http://yuwanosato.com/>

発行者 理事長 河野義刀



写真は春の健康診断の様子です。健康診断は年に2回あり、敷地内に大型車両が入って行われます。写真に写っているのはレントゲン車です。立ち会っていた看護師に話を聞きました。『レントゲンは暗い中での検査になるので、検査前に少しでもリラックスできる時間があると利用者さんも安心。このような時間のゆとりも必須ですね。利用者さんにとって健診はどなたも不安が強く、ドキドキするもの。身近にいつも側にいてくれる職員がいてくれると少しでも不安がやわらぎ、また、そっと身体にふれているだけでも不安を抑えることができるようです。聞きなれた声での声かけも安心の一つですね。』と話してくれました。

今年に入り、入所部に続いて通所部でもアート活動を始めました。毎週火曜日のクラブ活動の時間に、利用者さん3〜4名で創作室で行っています。画用紙の大きさや使用する画材は、自分で選んでいただいています。

この活動を始める前に、職員で話し合いをしました。安心して居心地よく過ごしいただけるよう、この活動では職員ができるだけ指示や規制をしないように努めることにしました。

アート活動は月1回の開所日の創作や普段の作業、自立課題とも異なる取組みです。自分で選んだ画材を使って自由に描く人、なかなか筆が進まない人など表現の仕方はさまざまで、毎回新たな発見があります。中には意欲的に挑戦されたり、じっくりと集中して作品づくりに取り組まれたり、お気に入りの道具を見つけて上手に使用する人もいます。みなさんの新たな魅力や個性豊かな一面が感じられる時間となるように支援していきたいです。各利用者さんの参加は3か月に1回程度のペースですが、これからも一人ひとりの思いや感性を大切にしながら、活動に取り組んでいきます。

(主任生活支援員 西川厚)

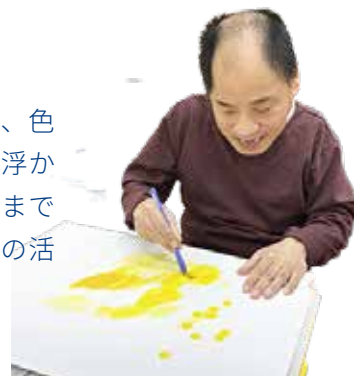


てらおまさとし
寺尾昌敏さん

クレヨンやマーカーで、カラフルな線をたくさん描かれます。線と線がぶつからないように、丁寧に繊細なペン使いです。配色にも寺尾さんのセンスが光ります。普段は創作班でウエス作業を頑張る寺尾さんですが、今回アート活動を通して新たな一面が見えました。これからも、アートという観点から寺尾さんの魅力を引き出していけたらと思います。

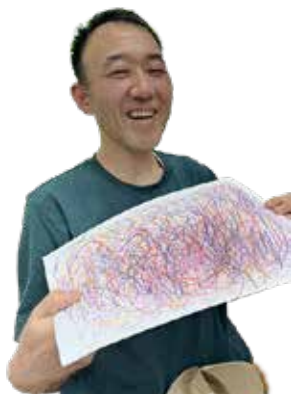
あさかりょうじ
浅香亮治さん

とにかく黄色がお好きな様子の浅香さん。マーカーペン、色鉛筆、水彩絵の具、シール、すべて黄色を選び、笑顔を浮かべて画用紙にむかいます。しまいには画用紙に穴があくまで塗り続け、満足した様子でした。浅香さんにとって、この活動が少しでも気分転換になってくれたら嬉しく思います。



かわもととしき
川本俊樹さん

たくさんの線を色を変えて描く川本さん。筆圧を感じるのがとっても心地よいようで、描く作業はまるでオーケストラでタクトを振る指揮者の様。促せば絵筆も使うけれども、とんがった色鉛筆やマーカーがお好みです。どんどん描けば、どんどん色鉛筆の芯は減ってしまい、最初鉛筆削りで削る作業を職員がしていたのですが追いつかず、気づけば上手に削って色鉛筆を使ってきていました。活動中、ずーっと笑顔で表情がよかった川本さん、また一緒に描こう！



かがわあきのり

香川晃範さん

シール貼りが上手な香川さん。職員と一緒に、一枚一枚丁寧に他のシールと重ならないように貼っていきます。始めは座ったまま、あまり動かずでしたが、少しずつ慣れてこられ、時間いっぱい画用紙と向き合いながら手を動かして参加してくれました。これからも香川さんに合った画材を、活動を通して一緒に探していきたいと思います。



むらおかしょうへい

村岡詳平さん

色使いがとてもきれいで、透明感やにじみ、ぼかしの表現といった水彩絵の具の良さを活かした作品を描かれます。「絵を描くのは好き」と教えてくれました。画材も、自分で水彩絵の具と平筆と小筆を選んでおられました。村岡さんの“好き”を深掘りしていきたいと思えます。



えきもとみつ

浴資充さん

アート活動が始まったばかりの頃は、「創作室で何やってるのかな」とチラチラ教室の外から見ていた浴さん。「やってみますか」と職員が声掛けするも、ニコニコしながらどこかへ行かれる日々。ある日、スッと創作室へ入ってきてくれました。それから慣れるまで時間はかかりませんでした。水彩絵の具とハケを手に取り、大きな画用紙にグルグルと勢いよく着彩。何よりとても楽しそうに描かれています。浴さんが使用しているスケジュールボードにアート活動が書かれていなくても、よく飛び入り参加されています。



だいこくまさき

大黒真希さん

初回は教室の外から様子を見ていた大黒さん。職員の声掛けで入室。大きな画用紙を選び、クレヨンで力強くグリグリと塗りつぶしていきます。そして出てきたカスを足元に落としています。色を塗った方はもちろんきれいですが、落としたカスにも大黒さんならではの表現がつまっていると職員が感じ、こちらも作品として取っておくことにしました。大黒さんは、時々飛び入り参加されます。次は、大きな大黒さんの手からどんな作品が生まれるのかこっそり楽しみにしています。



たなかようすけ

田中陽介さん

入室直後はやや緊張気味だった陽介さん、クレヨンと画用紙一枚を選んで着席しグルグルと曲線をえがいていきます。続けて2枚3枚と描いていくうちに慣れたようで表情もやわらかくなりました。その後、グルグルの最中に陽介さんの好きなコトバを職員が声掛けをしてみました。オウム返しで「ヒット」「ホームラン」「アーチェリー」と返してくれて、大好きな「アーチェリー」は何度も繰り返されました。気持ちもほぐれてきたところで、プチプチを使ったスタンプを提供してみると、写真のような笑顔でどんどんスタンプングをしていました。



社会福祉法人 友和の里

きょうどうせいかつえんじょじぎょうしょ しょうかい
共同生活援助事業所を紹介しす

友和の里には3つのホーム（グループホームゆうわ、フレンドホームゆうわ、ハピネスゆうわ）があります。利用しているみなさんは、平日は日中活動へでかけ、週末はホームで休息をしたり、自宅へ帰宅したりして過ごされています。日々どんな風に生活を送っているか、その暮らしぶりの一部をご紹介します。



Aさんは、誰とでもすぐに馴染むことができるという強みがあります。週に1回ヘルパーさんと近所を散歩しています。特におしゃべりをするわけでもなく、いつも淡々と歩いて、その帰り道にマックスバリューで買い物をして帰ってこられます。



絵：北村学

Bさんは、平日はホームで過ごして毎週土日は自宅へ帰って過ごされています。家族と自宅で団らんをしたり、外出をしたり、馴染みのヘルパーさんとプールに行かれる事をととても楽しみにしておられます。

Cさん、家族は亡くなられているため、毎日ホームで過ごされています。自分の部屋で好きなカラオケをしたり、CDを聴いたり、DVDを観ることもあります。時には職員と一緒に歌うこともあります。どんどん増えていくCDを、職員と一緒に片付けながら、「誕生日には〇〇がほしい」と積極的にチラシを見せてくれるCさんです。

Dさんは、映画を見に行きたいという希望も持っていることが分かり、ご家族と相談をしました。当初、外出には不安のあったDさんですが、現在は定期的に外出してヘルパーさんと食事や買い物に出かけています。外出経験を重ねるなかで「迷いながら自分で決める」ことが彼の楽しみとなり、次の外出日が待ち遠しくなっています。

Eさんは週に1回、日中活動で他事業所を利用されています。事業所の迎えの方がみえると、手を振って元気よく出かけていくのです。またEさんは訪問客が楽しみで、出迎えや見送りをいつもしてくれています。



絵：平珠希

これはホームでの生活のほんの一部のご紹介です。利用されるみなさん、それぞれにプランや日課があり、ご自分のペースに合ったリズムで生活を送ってられます。ホームでは居場所を選べるのが魅力です。淋しくなったら食堂など共有スペースにも行けるし、ひとりで過ごしたい時は自分の部屋でも過ごすことができます。またホームでは、お誕生日にはみなさんでケーキを食べてお祝いしたり、地域の一人として町内清掃や夏まつりやとんどなど地域行事にも参加しています。

かいとおほん 貝通し班 貝通し班の皆さんが毎日コツコツ作り上げた採苗器がこんなにたくさんになりました。これからこの採苗器が広島県の牡蠣養殖場に納品されます。皆さんの日々の積み重ねが、こうして地場産業への貢献につながっています。また、気温が上がり、日中暑いと感じるようになりました。窓を開け風通しを良くするなど、暑さ対策をしながら、引き続き一緒に活動していきたいと思ひます。(生活支援員 冠 茜)

とうげいはん 陶芸班 暖かくなってきた今の時期は、石膏の型が乾きやすく作業のペースも一段と早くなります。ほぼ毎日型流し作業ができる状態ですので、皆さんと協力して作成していきたいと思ひます。来月頃には素焼き、色付けをしていきます。(生活支援員 朝川 泰貴)

りょういくはん 療育班 作業室1の室内を大きく変更しました。皆さんが作業しやすいような環境にすべく、机の位置やリラクセスできる空間を作りました。皆さんがより作業に励んでいただけるよう支援をいたします。(生活支援員 濱田 吉弘)

そうさくはん 創作班 夏を感じる季節が近づいてきましたが、創作班ではメンバーも増え、さらに賑やかに盛り上がっています。作業中での会話では、休日にやりたいことや行きたいところ、食べたいものの話をしている時が特に盛り上がっています。盛り上がりながらも手を止めることなく、皆さん職人さん顔負けのお仕事をなさっています。今後も元気なメンバーと一緒に頑張っていきたいと思ひます!!(主任生活支援員 山田 憲志)



まちどり 待鳥さんインタビュー

「長く勤められている方はすごいなあとと思う」と語る待鳥由布子さん。長年看護師として働いてきた待鳥さんに、率直な思いを聞きました。



医療との関わりと日々の悩み 利用者さんの高齢化に伴い、医療的ケアの必要性が高まっています。急なけがや受診、定期通院なども多く、生活支援員の協力を得ながら、看護師3名で日々の業務を担っています。以前は活動にも参加していましたが、現在は難しい状況です。歩く力が弱くなった方や歩行を嫌がる方もおり、生活の中でどのように支えていくか悩みながら向き合っています。

心に残るエピソード 出勤を示すボードに顔写真を掲示していますが、ある日、休みの日にもかかわらず表示が出ていたことがありました。その日、普段あまり言葉を発しない佐々木慎吾さんが、「まちどりさん」と何度も名前を呼び続けていたと後で聞き、とても嬉しく感じました。

ご家族の願いと現実 ご家族からは「慣れた場所ですら最期まで過ごしてほしい」という願いを聞くことがあります。入所部では、長年暮らしている方から新しく入所された若い方まで、さまざまな利用者さんが共に生活しています。すべての方に寄り添い続けることの難しさを感ずる場面もあります。ご家族を亡くし、帰る場所がなくなつた方の姿に、さみしさを感じることがあります。

生活支援員の取り組み 口腔ケアは主に生活支援員が担っています。中でも「はみがき3秒ルール」という工夫により、口を閉じてしまう方が少しづつ口を開けられるようになってきました。日々の積み重ねによる支援員の努力を感じています。

食事について 味覚の過敏さから、食べられるものが限られる方もいます。入所当初は体重が減ってしまう方もいますが、徐々に食べられるものが増えていくケースもあります。佐々木さんも、少しづつ豆腐が食べられるようになってきました。限られた食事の中から選びながら、日々の生活が支えられています。

トピックス

ホームでの休日 恋サブレさん来店

いつものGWとは違い、今年は5/3に恋サブレさんに訪問販売をお願いしました。フレンドホーム入居者の平珠希さんにお手伝いをお願いしました。一つ一つ丁寧に優しく袋に詰めを。お店の方からもお手伝いマスターのお墨付きを頂いていました。美味しいおやつでほっこり休日のフレンドホームでした。

(主任生活支援員 吉村 愛)

恋サブレさんに来て頂きフレンドホームの中廊下でスイーツの販売を行って貰いました。入居者の皆さんは一人一人順番に美味しそうなスイーツが並べられたテーブルに行くとき目をギンギンに光らせ「これは？これを買っていい？」とカゴいっぱい沢山買われると、お店の方から差し入れて貰ったカルピスと一緒にパクパクと食べられ満面の笑みでした。入居者さんにもお手伝いをお願いすると、お店の方から「手伝って貰って助かるよ、ありがとー」優しい声を掛けて頂きました。生憎の雨でしたが、フレンドホームの館内は甘くて美味しい時間が流れ楽しいひと時となりました。皆さんの嬉しそうに食べている顔を見ると、また来て頂きたいな～と思いました。

(生活支援員 正木はるみ)

恋サブレ尾池菜緒美さんより

いつも手伝ってくれる娘を今回は連れて行かなかったのが川久保さんに袋詰めのお手伝いをして下さる方がいらっしゃいますか？とお伺いしたところ、すぐに平珠希さんをスカウトして頂きました。平さんには計算した商品を袋詰めしていただきました。明るい声と表情でお客様に声掛けもしてくださって、お陰様でお客様もリラックスしてお買い物をされていたようです。平さんを迎えに来られたお母さまが「できるんじゃー」と嬉しそうにされていたのが印象に残りました。



大活躍の平さん！



入所部より GWのレクリエーション

入所部では、5/4にマックスバリュへ外出し、おやつと、昼食にドミノピザのピザセットをみなさんで楽しみました。買い物では、みなさんが思い思いにお菓子とジュースを選ばれ、笑顔があふれていました。選んだおやつを嬉しそうに味わう姿に、職員も自然と笑顔になりました。昼食のピザは、入所部では初めての試みでしたが、これが大好評。箱を開けた瞬間の「わあ〜」という声、そしてあっという間に食べ終わるみなさんの様子に、職員も驚くほどでした。また、職員同士の会話で「多くの利用者さんが箸でピザを食べていた」と聞き「入所部の利用者さんは上品だからね」と笑い合う場面もあり、ほっこりとした空気が流れていました。いつもとは少し違う休日を、楽しんでいただけたのではないかと思います。これからも、みなさんがワクワクできるようなレクリエーションを企画していきたいと思ひます。

(主任生活支援員 池田 識彰)



ダイハツ広島販売大竹店へぜひ アートレンタル事業

今年度も「アートレンタル事業」として、ダイハツ広島販売大竹店に利用者さんの絵を展示させていただくこととなりました。早速4/25(土)に、星川さんと一緒に絵の入れ替えに行きました。自分の絵が展示されることもあり、入れ替えしている作業の様子を真剣に見られておりました。作者名と紹介分のキャプションを貼るのは星川さんに手伝っていただきました。星川さんの絵は4月～6月展示されます。

(主任 甲斐 真由美)



新しいホームでの生活が始まって ハピネスゆうわ、その後

世話人さんが気づいてくれたのですが、洗濯物を仕分けるときに手伝いをしてくれる利用者さんがいるそうです。洗濯物が誰のものか分かるようにネームプレートがあります。それを用意すると塩田さんがすすんで手伝ってくれるというのです。「これは〇〇さん」と言って机に置くと、その人の洗濯物の前にさっとネームプレートを選んで置いてくれます。ハピネスが開所してから始まった、世話人さんと利用者さんの連携プレー。これからが楽しみです。（部長 川久保 貴子）

自動販売機へのアクセスがしやすくなりました スロープができました

通所部の活動棟横にある自動販売機への行き来がしやすくなりました。これまでであったコンクリート縁を取り除いてなだらかなスロープになっています。けつまずいて転倒するリスクがなくなりました。



月に1回のおたのしみの土曜日 New Sports: フライングディスク

5月の通所部の開所日では、「フライングディスク」を行いました。このニュースポーツは、手の届く範囲でだれでも参加ができ、身体的な健康の維持・向上を楽しみながら取り組むことができます。ディスクを渡すと皆さん思い思いのやり方で、的に向かって投げていました。一緒に過ごす時間を持てたことは、開所日をより一層盛り上げる事が出来たことを嬉しく思います。日中の活動・運動の時間にも取り入れ、楽しく体を動かせるなど活動を増やしていきます。（生活支援員 井場 孝行）



スロープ

初夏の緑の中で、「育ち続ける」こと

初夏を迎え、友和の里の裏山は新緑がまぶしい季節となりました。力強く伸びる木々の緑や、足元に咲く小さな花を見ると、自然の持つ生命力に元気をもらいます。同じ山の中でも、木によって葉の広げ方は違い、花もそれぞれの場所で自分らしく咲いています。

花が咲くためには、土や水、日当たりといった周囲の環境が大切です。人が育つことも、どこかそれに似ているように感じます。

友和の里の基本方針の一つに、「生涯にわたって安心して暮らせる支援をめざします」という言葉があります。利用者の皆さんは、一人ひとり違った個性や歩みを持っています。年齢を重ねる中で、できることが変わることもあれば、新しく興味や楽しみが見つかることもあります。私たちは、その変化を成長として大切に、その人らしい暮らしが続いていくように、長い時間を見据えながら関わっていきたくと考えています。

「生涯にわたって安心して暮らせる」ということは、単に安全な場所があるという意味だけではありません。安心して気持ちを表現できること。困ったときに相談できる人がいること。自分らしく過ごせる居場所があること。そうした積み重ねが、その人らしい暮らしにつながるのだと思います。そして、それを支える職員もまた、育ち続けていく存在です。利用者との関わりの中で悩み、学び、時には立ち止まりながら、一人ひとりが経験を積み重ねています。安心して相談できる環境や、学び続けられる環境があることで、職員もまた成長し続けることができると考えます。利用者の皆さんの暮らしと、職員の成長は、ともに関わり合い、支え合うことで少しずつ育っていきます。

私事ではありますが、この度5月末日をもちまして常務理事を退任することとなりました。これまでご利用者、ご家族、地域の皆さまから賜りましたご厚情に、心より感謝申し上げます。（中村 真和）

6

ゆうわ さとぎょうじよてい 友和の里行事予定

- 6/3 水 ホップおでかけ (入所)
- 6/7 日 町内一斉清掃 (ホーム)
- 6/10 水 工賃支払日 (通所 / 入所)
体重測定 (入所)
お楽しみ会 (入所)
- 6/12 金 夕食会 (ホーム)
- 6/17 水 レクリエーション (入所)
- 6/19 金 アート活動 (入所)
カラダのこえをきく
- 6/22 月 さつまいも作業 (入所 / 通所)
- 6/23 火 夕食会 (入所)
- 6/25 木 ジャンプおでかけ (入所)
- 6/28 日 訪問美容
- 6/30 火 こんしんかい (グループ・ハピネス)
そうじの日 (入所)

水曜日移動スケジュール					
1	2	3	4	5	6
	理事会	ホップおでかけ			
7	ちょうないせいそう	ぎょうじしよく	たいじゆうそくてい こうちん おたのしみかい		ゆうしよくかい
14			レクリエーション	評議員会	たいじゆうそくてい カラダのこえ(アート活動)
21	さつまいもさぎょう	ゆうしよくかい		ジャンプおでかけ	
28	ほうもんびよう	運営協議会	そうじのひ		こんしんかい(グループホーム & ハピネスゆうわ)

ホーム

(これからホームに総称します)
グループホームゆうわ
フレンドホームゆうわ
ハピネスゆうわ

- にゆうしよ (入所)
- つうしよ (通所)
- ホーム
- アーチェリー

※ 今月のおまけ ※

あんなことこんなこと

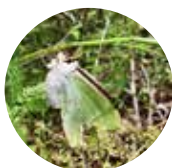
サヨナラサンカクマタネ

お母さんがお迎えに来られ、職員が出入口の所まで送っていった時のこと。「サヨナラ サンカク マタネ」と東間美保さんが言って、帰宅されたそう。「なつかしー」と笑いながら浜先部長がその出来事を話してくれました。



ヤママユ

施設管理をしている職員石社さんが、友和の里の山で発見したヤママユの蛾。「めずらしかろー」とうれしそうに写真を見せてくれた。



かみなりがなった日のこと

悪天候の日、雷がなりました。ちょうど日中活動の作業中、「かみなりにはソをとられるよ!!」と職員の八田さんが声をかけたそう。すると、それを聞いていた大黒真希さんが、ずっと立ち上がりズボンを引き上げたそうです。大柄な大黒さんの機敏な動きを見てみたかったなあ。

夜勤明けの日に

フレンドホームの出入口に座っていることが多い李鎬烈さん。ある日、職員の岡田さんが夜勤明けで帰ろうとした時に「オツカレデシター」と声をかけてくれたそう。声をかけてもらった岡田さん、「面白いし、新鮮でした」とのこと。職員同士の挨拶を出入口で聞いて覚えたのかなと教えてくれました。

コシアカツバメの巣

お昼休みにひなたぼっこしていた石本彩子さん。にこにこ顔で見あげている方向を見てみると、ツバメがいました。背中が赤いツバメはコシアカツバメです。ねと職員の藤本さんが教えてくれた。

